

アメリカコロラド州立コロラド大学との協定のための 訪問記

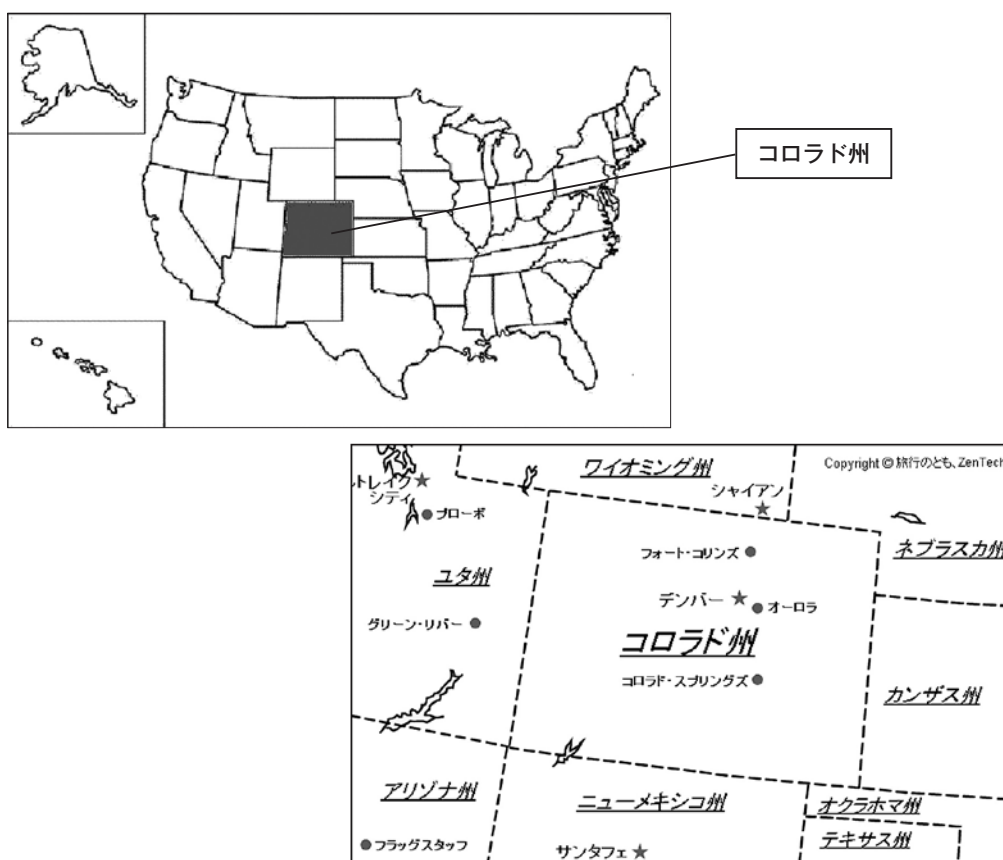
広島文化学園大学看護学部

佐々木秀美, 島内 節, 岩本 由美

■ はじめに

看護学研究科博士後期課程設置趣旨の一つに看護学の学際的・国際的教育研究の推進がある。看護学は人間を対象とした実践科学である。将来を担う博士後期課程の学生のみならず看護学部においても、国際的な視野で健康ニーズを理解する必要がある。広島文化学園大学は、諸外国の幾つかの大学と交流協定を結び国際交流を行っているが、新たにアメリカ合衆国 Colorado 大学看護学部と平成23年9月に双方の看護学部間の交流協定を結ぶことにし、アメリカへ飛び立つことになった。

コロラド州 (Colorado CO) は、アメリカ合衆国西部にある州であり、北側はワイオミング州に接し、北東はネブラスカ州、東側はカンザス州、南側はニューメキシコ州とオクラホマ州に、西側はユタ州に接している。



ささき ひでみ

〒737-0004 広島県呉市阿賀南2-10-3 広島文化学園大学看護学部

州の南北にはロッキー山脈が貫いており、州全体の平均標高が全米で一番高い。標高が高く山岳地帯の州であるため乾燥地帯であり、佐々木の皮膚はすぐに反応して乾燥肌になった。州の東の方はグレートプレーンズ（大平原）である。日差しも強くサングラスは必需品であり、高齢者には水分補給が呼びかけられていた。デンバー市はコロラド州の州都および最大都市である。コロラド州の東側の部分は1803年、西側の部分は1848年のメキシコからの割譲によってアメリカ合衆国に編入された。1859年のコロラドゴールドラッシュでは、初期の採掘ブームがすぎると多くの町がゴーストタウンとなったが、デンバー地域に多くの移住者が移り住んだ。1861年2月28日コロラド自治領（準州）がアメリカ合衆国領土として成立、1876年にコロラド州が成立した。2010年の人口は5,029,196人である。



デンバー市

そこで、ここでは平成23年9月28日に Colorado 大学と本学との教育交流協定のために訪れたアメリカ、コロラド州にあるデンバー市にあるコロラド大学訪問の旅について一部報告することとした。

■ コロラド大学における看護教育の歴史概略

『The History of University of Colorado School of Nursing』¹⁾によれば、コロラド大学の看護学部の前身は、1898年ボウルダー（Boulder）²⁾に大学病院が開設された際に医学教育下に設置された看護師養成所である。この養成所は、1900年には2年コースの養成所になったが、1901年に2人の卒業生を出した。1903年、同校は3年コースになった。1905年、最初の試験制度と看護師登録制度ができた。1910年、コロラド大学病院看護婦養成所の5人の看護師が卒業証書を得た。1918年、第一次大戦時に看護師教育は2年コースの専門学校になった。

1920年、5年間のオプションプログラムの組み合わせによって看護学の高等教育として認められ、学生たちに学士の学位が与えられた。1922年、この養成施設は、デンバーへ移転するために閉鎖された。1924年、コロラド大学看護学部が開設された。1946年、大学院修士課程が開設された。1951年、Western Interstate Commission for Higher Education（WICHE）が組織づけられ、1956年、Western council on higher Education for nursing（WCHEN）が設置された。

1965年、最初の Nurse Practitioner（NP）Program が医学教育に付設された。1978年、博士課程教育（Ph.D.）を開始した。マーガレット・ジーン・ワトソン（Margaret Jean Watson 学部長在位1983-1990年）在職中の1986年、ヒューマンケアセンターが開設された。1990年、Doctor of Nursing（DN）プログラムを開始した。



コロラド大学キャンパス内



コロラド大学看護学部

コロラド大学は現在、提携した外国の大学は100校以上。充実した大学である。ただし、キャンパスが広すぎるせいか、拡張を続けていて境界線が明確でないのか、日本のような大学名が仰々しく入った門扉もなく、よって入り口がなく（これも特徴かもしれないが）、重々しさが感じられない。むしろ、遠くから見ると一大商業地区にも見間違えるような高層建築物が立ち並んでいる。

■ 渡航目的及び計画

アメリカ渡航目的はアメリカコロラド大学との提携により、本学看護学研究科および看護学部の質的向上を図ることと、海外における看護学研究の動向及びその情報収集、共同研究推進などが推進できるようにすることであり、その基本合意を得るためである。渡航計画は下記表に示した。

日	曜日	時間	内容	備考(渡航先住所・宿泊ホテル)
9月25日	日		広島発12:50 → 成田着14:10	
9月26日	月		成田発17:25→アメリカデンバー着16:46 (サンフランシスコ経由)	Hilton Garden Inn Cherry Creek 600 S. Colorado Blvd., Denver, Colorado, USA 80246
9月27日	火	11:00-13:00	協定コロラド大学とのmeeting/看護学部 見学と修士・博士課程教育についての説明/協定	協定文書ー資料1
9月28日	水		コロラド大学付属病院見学(急性期病院, がんセンター, 子供病院)	
9月29日	木		在宅ケア施設, ヘルスセンター, 高齢者 ケア施設	
9月30日	金		学生, 教員研修・研究プログラムの検討	↓
10月1日	土		デンバー発 9:47 (ロサンゼルス経由)	
10月2日	日		成田着16:25 成田発17:40 → 広島着19:15	

■ コロラド大学訪問記

【平成23年9月26日】

成田発サンフランシスコ経由でデンバー空港に向かった。成田では入管他順調に経過し、携帯電話もスムーズに借りられ、広島文化学園大学にも電話番号を報告した。しかし、成田でサンフランシスコでの乗り換え便のチケットを一人は受け取っていたが、後の2人は受け取らなかったことは大きな失敗であった。サンフランシスコではまず、自動改札機で乗り換え便のチケットを出してもらうようであったが、チケットが受け取れなかった(番号入力は何を示しているのかわからず、色々な方法でトライしたができなかった)。次に空港係官に質問をすると、最初に並べといわれたところに長時間並んで待ち、やっと順番がきたらその係官は荷物を受け取るだけが役割のようでチケットを持っている人しか扱わない。そしてチケットの発行について問い合わせると自動発券機を指さすばかりであった。再度確認して違う列にならぶと、また、長時間待たされ、同じことを繰り返した。さすがに神経が苛立ってきた。そしてさらに、長い列の後ろに並んで長い間待ったのに、また、違ったようで別の長い列の後方に並ばされた。これでまた、1時間半を費やした。そして、最後に搭乗手続きでまた長蛇の列の最後尾に並び、搭乗機の前に立ったのは、飛行機出発の40分前であった。私たちには乗り換えのために3時間45分も時間があったのに、である。同じく、私たちのところで右往左往していたヒスパニック系の男性は、私たちより1時間早い出国であったために悲しげな顔をしていた。「go ahead」。私たちはお先にどうぞと日本人らし

い優しさと同情の念を込めていった。最初は遠慮していた彼も最後に私たちの親切を受けて先に手続きをした。そして、彼はまた、「あそこだ・ここだ」指差していつている係官に誘導されていた。



ユナイテッド航空でサンフランシスコからデンバーへ



デンバー空港

その様子から、また、別のカウンターに向かったようであった。それっきり顔を見ていない。見知らぬ人でも長い間近くで待たされ、同じ苦痛を経験していると同情の気持ちはわくものだ。間に合っただろうか？と思うと同時に、サンフランシスコ空港の入国手続きシステムの悪さと対応の不親切さにはあきれた。日本はなんて親切な国なのだろうか。しかし、乗り換え便も含め予約してあったチケットのすべてが成田で渡されていたらこんな苦労はなかった！

ホテルで疲れを癒した。ヒルトンホテルはさすがに広々とした空間があり快適。しかし、夕食は自分たちでゲットしなくてはならない。近くに大阪寿司があるというので行って見た。マヨネーズやトッピングが色々でオリジナルなすしは一つもなく、外国人はたくさんで人気があるようだ。また、日本人の職人さんが一人は働いているようであったが、経営者は韓国人である。日本のすしの味がわかるのか？商売気は豊富のようで、成功しているらしい。

【平成23年9月27日】

本日は、10時に看護学部の国際交流委員会のディレクター（Diane C. Lenset）が自家用車で迎えに着た。大学周辺のツアーをかねて町並みを車で一周し、看護学部棟に到着。学部内をツアーした後、コロラド大学看護学部が準備した弁当を食べた。学部長（Patricia Moritz）、副学部長（John(Kathy) Magilvy）と共に食事をしながら、看護教育に関して意見交換をした。



コロラド大学看護学部会議室で本学について説明



右から、学部長（Patricia Moritz）、副学長（Lilly Marks）、
佐々木、島内、国際交流委員会ディレクター（Diane C. Lenset）

島内教授が2週間前にエクスプレスで送った英文の本学大学案内はこの時点でまだ到着していなかった。大学内の広さは郵便物の配達にも影響があるらしい。個人用資料として佐々木が持参した大学案内及び看護学研究科教育概要と岩本准教授が持参した英語版の博士課程のコース案内を織り交ぜながら、日本国における広島県の場所、広島県内にある本学キャンパスについて説明を行った。彼らは日本国および本学に興味があるらしく、目を輝かせながら説明を聞いていた。その態度は看護学部の教員らしく、堂々としていた。

佐々木の古い友人であるアメリカ在住の百合子がアリゾナ州からコロラド州デンバーまでやってきた。彼女の病院見学同伴についても彼女たちは快くオッケーをしてくださり、感激である。午後は、近くの博物館を見学して州知事が経営しているという店で食事をした。案内役は日本人の留学生。三重県

出身で6年目であるとか。博士課程在学中であり、現在は老年看護学の専門看護師の資格取得に熱中しているらしい。とにかく、充実した一日であった。

【平成23年9月28日】

朝、10時に大学から迎えが来る。30分ほど談笑した後、コロラド大学側から、副学長（Lilly Marks）、国際交流委員会の責任者（Diane C. Lenset）、学部長（Patricia Moritz）、広島文化学園大学側から、副学長（佐々木秀美）、研究科長（島内 節）とで、協定書（Agreement）にサインをした。



協定書にサインをする副学長と学部長



サイン後にこやかに固い握手をする両大学の副学長

岩本准教授は写真撮影と英語の通訳を上手にカバーした。

本学の岡学長は訪米に同行できなかったため、私たちは帰国時に協定書（Agreement）を持ち帰り、学長のサイン後にコロラドに郵送する手配とした。その後、両大学の教育連携について改めて話し合った。友好的な会談は1時間ほどで終了し、コロラド大学が準備した軽食で昼食を終えた。本学から持参した広島文化学園大学センベイが人気であった。午後、大学キャンパス内の図書館に案内してもらった。さすがに医学部、看護学部、薬学部、歯学部他で学生が3万人ほどの大学であり、それにキャンパス内にあるメディカルセンター、他、診療施設が複数設立されているほどに、図書館の規模の大きさは並ではなかった。本学との協定は、本学にとっては誇りに思える部分であるが、コロラド大学にとっては、

忙しくなるばかりで、彼らにとってメリットはあまり、ないはず。大切にしなければならないと思った。日本でも有名なジーン・ワトソン (Margaret Jean Harman Watson) はコロラド大学の卒業生であり、学部長でもあった。彼女の看護理論は『ワトソン看護論 人間科学とヒューマンケア』³⁾として翻訳・出版されている。彼女の理論は、哲学的基盤によって形成され、看護の人間関係に吹き込まれた力動的な現象学的要素を含んだそれぞれの因子が相互に関連してケアリングの科学を支えている。ワトソン教授は現在でも教授職にあり、彼女の Human care とその哲学は着実にコロラド大学の教育に根づいている。

協定が終わったのち、学生用の小さなショップでナイチンゲール関係の本を一冊購入、お土産としてコロラド大学のロゴ入りキーホルダーを購入した。50個は少々重たい。大学の規模と大学内にある図書館の充実に比べるとこのショップは小さい。島内、岩本両者の買い物が済むのを待っている間、コロラド大学から頂いた、看護学部歴史本『The History of University of Colorado School of Nursing』⁴⁾に目を通した。比較的読みやすく、また、ナイチンゲール他、知っている事項が多くあったので、歴史研究が主たるワークである私にとってたまらない喜びであった。病院の設立、医学部の設立、病院の拡大、看護師の必要性から、看護の専門学校設立。ゴールドマークレポート以降、比較的早く大学に移行させ、専門学校は発展的に閉鎖した。以後、修士課程の設立、博士課程の設立、博士課程における NP の最初の教育校である。佐々木が考えている博士課程における NP の考え方がここにはあった。



夜は、コロラド大学主催で夕食会があった。各面々の満足げな顔でも一目瞭然であるが、食事もおいしく雰囲気も和やかなディナーになった。ちょっと、お腹が重たい。しかし、互いに懇親を深め、今後の教育・研究活動に効果的になりそうである。また、佐々木がコロラド大学関係者個々にプレゼントした日本茶は思いがけず好評であり、日本文化のアメリカにおける日本食ブームを垣間見た瞬間であった。食と健康という意味で日本茶をたしなむアメリカ人も多いようだ。明日は、おいしい日本茶の入れ方を島内教授がご披露・教授することとなった。

【平成23年9月29日】

午前9時には、正確に大学側から迎えが来た。10時からお茶のおいしい入れ方について島内教授が教授した。会話も楽しみながら楽しいひと時を過ごした。11時から、コロラド大学から、博士課程のカリキュラムについて丁寧な説明があった。行動心理学的な分野があり、興味深かった。本学博士課程の学生との共同学習ができると発展的である。その後、看護学部の授業を見学した。バイアルから、注射器に薬液を吸い込んでいる授業風景だ。本学看護学部における基礎看護技術の授業と同じだ。シミュレーションルームが非常に充実していた。お昼は学食でサンドイッチなどを購入し、簡単な食事で昼食を済ませた。



島内教授，日本茶のおいしい入れ方講義中

午後2時からホスピスケア施設(The Denver Hospice)の見学に行った。最初のミーティングでは、チャプレンの説明，ディスカッション，医師の説明，ディスカッションなどを含めて，日本でのホスピス・アメリカでのホスピスの現状報告をしあった。その後，音楽療法目的で，日ごろ，実施している半分サイズの豎琴の演奏があった。とても癒された。

その後，Heritage club という高齢者施設に向かった。そこは，第一に Independent Living，第二に Personalize Assisted Living，第三に Rehabilitation Living の三段階の高齢者施設である。第一の段階は自立した方々が入所される。月に2食付で約27万円，他，ハウスキーピングを依頼したりするとともに高くなるそうだ。次は，一部介助の方々である。ここは月に40万円程度，最後が多くの方々の介助を有する方々で，月に70万円ほどである。内容的には充実し，スタッフも多い。何より，調度品や絵画など，すべてにおいて豪華！日本人でも入れるほどの金持ちはいらっしゃると思うが，そう多くはないであろう。東京の一般病院の個室料金もさまざまであるが，一日3万円の差額料金が派生する部屋の場合，月に90万円を支払うことになる。まさに70万円なら支払い可能だ。

夕食は，また，ホテル近くの大坂寿司で会食した。百合子のアメリカ生活の苦労話も加わり，話に花が咲いた。明日，一日が勝負！毎日が早い。その次の日は帰国である。



ホスピスケア施設



高齢者施設 Heritage club



高齢者施設内庭

【平成23年9月30日】

本日は、デンバーでの最後の日。午前中、島内教授はかねてより継続中の共同研究について話し合いがあり、先に大学へ。佐々木は岩本准教授がかつてデンバー時代に住んでいたデンバー市内のアパートを訪ね、当時の面影を偲ぶツアーに行くこととした。百合子の運転で向かった高層住宅のその住まいは残っていた。周辺の環境が幾分変わり、雰囲気が違って見えたようだが、それでも岩本准教授は若かりし頃を懐かしんでいた。その頃より変わらずあったスーパーに入り、佐々木は家族へのお土産としてチョコレートを買った。その後、大学へ到着する約束時間がまだ大分残っていたので、大学までの道中にある大きなショッピングモールに移動した。そこはブランド品が多く、良い品があったが、ウインドウショッピングのみとして散財を慎んだ。コーヒープレイク後に約束の時間を考慮してコロラド大学に向かったが、ここでアクシデント。百合子が一つ左折を間違えたがために、元の道に戻るのにほうほうの体であり、ぐるぐる回っている間に方向感覚を失った。結局、大学に着いたのは約束の時間から45分が過ぎていた。

待ってくれていた副学部長のマギルビー（Magilvy）教授と合流し、あわただしくコーラとピザの昼食後、がん病棟と白血病の骨髄移植の病棟見学を行った。ここではNPが多く働いていた。日本での特定診療看護師（NP）制度の問題も背景にその教育の在り方については非常に興味深いものであり、見学後、かなりの討論を行うことができた。



がん病棟で働く日本からの留学生と病棟スーパーバイザーのスタッフと一緒に、右端は Magilvy 教授

その後、小児病院へ。ここはコロラド大学の付属病院であると思ったが、そうではなく、寄付で設立された病院であった。同じく公立でも日本とは経営方針及びシステムは違うものだ。このあたりが日本の医学系大学の附属病院とはかなり経営的に差がある。しかし、この病院は医学部および看護学部における主要な実習施設だ。病棟のプレイルームを含め、広さがある上に調度品他設備の充実には日本は30%にも及ばない。良いケアがなされていると考えられた。写真の場所は小児病院の7階フロアであるが、周囲の壁は透明なガラスでできている。割れにくく安全な素材を使っているらしい。下を見下ろすと1階部分ではアトラクションが行われていた。日本の病院の静寂に比べると何と騒々しいことか。お祭り騒ぎである。



Lenset 教授、案内役の日本からの留学生、病院スタッフと一緒に

午後5時過ぎまで見学に費やし、別れを惜しんで大学を去った。調印された文書と、折々に撮ってくれた写真が手渡された。夕食後、明日の出発時間を確認、タクシーを手配して帰国のための荷物を整理した。荷物が増えた。そして重たい。

■ 大学間協定

コロラド大学との Agreement は以下に示した内容である（英語版）。また、参考のために、日本語版も最後に提示した。



AGREEMENT FOR COLLABORATIVE PROGRAMS
BETWEEN HIROSHIMA BUNKA GAKUEN UNIVERSITY
SCHOOL OF NURSING
AND UNIVERSITY OF COLORADO DENVER
COLLEGE OF NURSING

The Hiroshima Bunka Gakuen University, School of Nursing, and the Regents of the University of Colorado, a body corporate, for and on behalf of the University of Colorado Denver, College of Nursing, enter into this collaboration agreement for the promotion of academic cooperation and scholarly exchange between the two institutions.

The areas of cooperation between the parties may include but are not limited to the following activities:

- 1) Exchange of faculty and staff
- 2) Joint research projects
- 3) Exchange programs for undergraduate and graduate students
- 4) Exchange of information and materials in fields which are of interest to both parties

The document is not intended to create binding or legal obligations on either party of this Agreement but rather to outline the relationship that the parties hope to create. The implementation of exchange or other means of cooperation based on this Agreement shall be memorialized in a separate memorandum of understanding for each joint activity or program to be agreed upon by the parties and signed by the authorized representatives. The two universities will agree upon specific arrangements for special facilities, laboratories, fees and funding in advance.

Acceptance of students and faculty for an exchange program is at the discretion of the President/Dean/Head at the host institution.

Student Exchange Program

Details of the exchange programs, such as the number of students who will participate and dates of exchanges, will be discussed at a later date by both institutions. Student exchanges at the undergraduate and graduate level will be considered by each institution on the basis of its regular procedures and requirements.

At the University of Colorado Denver, College of Nursing, admission to an academic degree program in order to complete a graduate degree will be considered on the basis of the regular admissions procedures and requirements of the College and the Graduate School.

Exchange students will be responsible for all costs and expenses incurred in connection with their participation in the exchange programs, including travel and accommodations. However, the host institution will attempt to assist students in obtaining suitable housing.

Faculty Exchange

Faculty exchange may be arranged on short- or long-term bases for research, teaching, or for other collaborative projects. Each institution agrees to circulate information on opportunities for faculty exchanges. Financial details and other features of each faculty exchange will be discussed by both institutions for each activity or program undertaken. To the extent that it is reasonably possible, each institution will endeavor to locate external sponsorship for faculty exchanges.

Exchange of Educational and Research Resources

For consultations, workshops, seminars, joint projects, scholarship writing activities, and other activities in education and research or other topics. Individual memorandums of understanding will be developed for each exchange. Each institution will share information about learning resources, such as undergraduate, graduate, and continuing education courses, library materials, and conferences, thorough a mutually acceptable communication network.

The conduct of research and any research findings will be subject to the policies of both institutions.

Examples of exchange activities might include:

- 1) Visiting groups of students for a short period of time for presentations of nursing education content by faculty, assisted by an interpreter, and visits to clinical sites, including hospitals and other health care agencies.
- 2) Students or faculty who wish to visit for a longer period of time to engage in research or education activities with a faculty sponsor at the University of Colorado Denver, College of Nursing, would be expected to meet specified language requirements.

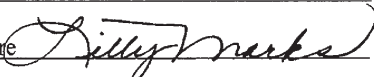
Length of Agreement

This Agreement shall take effect when all signatories have signed and will be valid for an initial period of five years. During the fourth year a renewal for a second five-year period will be considered.

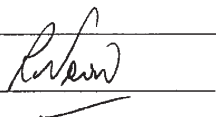
None of the provisions of the Agreement are intended to create any relationship between the parties other than that of independent entities contracting with each other solely for the purpose of effecting the provision of this Agreement. Neither of the parties, nor any of their respective officers, directors, employees, or agents, shall have the authority to bind the other or shall be deemed or construed to be the agent, employee, or representative of the other except as may be specifically provided herein. Neither party, nor any of their agents, shall have any claim under this Agreement or otherwise against the other party for Social Security benefits, workers' compensation, disability benefits, unemployment insurance, vacation, sick pay or any other employee benefits of any kind.

For the University of Colorado Denver
Anschutz Medical Campus

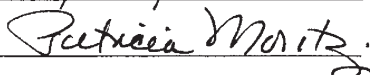
Lilly Marks, Vice President for Health Affairs,
University of Colorado and Executive Vice
Chancellor, Anschutz Medical Campus

Date 9/28/11
Signature 

Roderick Nairn, Ph.D., Provost and
Vice Chancellor for Academic and Student Affairs


Date 9/12/11
Signature 

Patricia Moritz, R.N., Ph.D., FAAN
Dean, College of Nursing


Date 9/28/2011
Signature 

For Hiroshima Bunka Gakuen University


Takamitsu Oka, Ph.D.
President

Date 10/3/11
Signature 

Sasaki Hidemi, R.N., Ph.D.
Vice President

Date 9/28/11
Signature 

Setsu Shimanouchi, R.N., Ph.D.
Program Director, Graduate School of Nursing

Date 9/28/11
Signature 

広島文化学園大学看護学部とコロラド大学デンバー校看護学部との
共同プログラムに関する合意協定書

広島文化学園大学看護学部と、コロラド大学デンバー校看護学部を代表してコロラド大学法人は、2
大学間の学術的協力と研究者交流を推進するためのこの共同の合意協定書を締結する。

当事者間の協力分野として以下の活動が含まれるが、これらのみに限定されない。

- 1) 教員およびスタッフ間交流
- 2) 共同研究プロジェクト
- 3) 学部学生および大学院生交流プログラム
- 4) 両当事者に関心のある領域の情報および資料の交換

この文書は、この合意協定両当事者に対して拘束力や法的義務を発生させるのではなく、当事者が新
たに行おうと希望する関係の概要を説明することを意図している。

この合意協定に基づく交流や他の方法による協力を実施するに際しては、当事者が合意し公認代表者
が署名した各々の共同活動やプログラムに対して個別の覚書陳述書を提出する。両大学は、実施に先立
ちあらかじめ、特別な施設、研究所、料金、資金拠出に関する個別調整について同意しておく。

交換プログラムのための学生と教員の受け入れについては、受け入れ大学の学長／学部長／学科長の裁量で判断される。

学生交流プログラム

交流プログラムの詳細、すなわち、参加する学生数、日程、などは両大学により後日検討される。学部および大学院レベルの学生交流は、各々の施設の正規の手順や要件をもとに考慮される。

コロラド大学デンバー校看護学部において、大学院の学位取得課程への入学は学部および大学院の正規の入学手続きと要件をもとに考慮される。

交換学生は、旅費および宿泊費を含む交流プログラムに関連して生じた経費と支出すべてに責任を持つ。しかし、受け入れ大学は適切な住居を得られるよう学生を支援するよう努力する。

教員交流

教員交流は、研究、教育、または他の共同プロジェクトについて短期または長期的基準で取り決められる。各々の大学は教員交流の機会に関する情報を連絡しあうことに合意する。それぞれの教員交流に関する資金の詳細やその他の主要事項は、実施される活動やプログラムごとに両大学によって検討される。無理なく可能な範囲で、両大学は教員交流のために外部の助成金・資金援助を探すよう努力する。

教育研究資源の交換

コンサルテーション、ワークショップ、セミナー、合同プロジェクト、研究執筆活動や教育研究またはその他のテーマに関する活動のための資源がある。

ひとつひとつの交流に対して、個々の合意覚書を作成する。各大学は、相互に受け入れ可能なコミュニケーションネットワークを通して、学部、大学院、継続教育コース、図書館資源、カンファレンスなどの学習資源に関する情報を共有する。

研究の実施と研究成果については、両大学の方針に従う。

交流活動の例としては以下のことを含む：

- 1) 短期の学生グループ訪問：通訳者を通じた教員による看護教育内容のプレゼンテーションと、病院と他のヘルスケア機関を含む臨地施設訪問
- 2) コロラド大学デンバー校看護学部の教員資金援助を受けて、研究や教育活動に従事するための長期訪問を希望する学生や教員は、個別の語学要件を満たすことが期待される。

合意協定期間

この合意協定は、すべての調印完了後に効力を発し、最初の5年間有効となる。4年目の間に次の5年間の更新が検討される。

合意協定のいかなる条項も、この合意協定の条項の発効目的のためだけに相互契約している独立事業体の関係以外の当事者間の関係を作り出すことは意図していない。両当事者や両当事者それぞれの幹部職、施設長、従業者、または代理人は、他方を拘束する権限を有しない、もしくは、特別に本契約に記されている場合を除いて、代理人、従業者、他方の代表者とは見なされたり解釈されたりしない。

両当事者も、両者のいかなる代理人もお互いに、この合意協定書などのもとに、社会保障上の利益、労働者の補償、障害者の利益、休業保険、休暇、傷病手当、他のすべての種類に関する雇用者の利益に対して、いかなる申し立ても行わない。

註釈

- 1) Diane B. Hamilton; The History of University of Colorado School of Nursing, Business Printing, Inc, 1999.
- 2) ボウルダー (Boulder) 市；ボウルダー市は、アメリカ合衆国コロラド州 ボウルダー郡に位置する都市である。コロラド大学ボウルダー校（英 University of Colorado at Boulder）は、米国コロラド州ボウルダー市に本部を置くアメリカ合衆国の州立大学である。1876年に設置された。
- 3) ジーン・ワトソン著，稲岡文昭他訳；ワトソン看護論 人間科学とヒューマンケア，医学書院，1992年
- 4) 前掲書 1)